

中ニカ、ハ  
輝出張報  
録レタハ

第三 産米増殖計畫ニ對スル批判

産米計畫ノ綱要ハ之ヲ前項ニ於テ述ベタリ而シテ本計畫ハ現今朝鮮ニ於ケル各種産業施設中ノ最大項目ニシテ總督府政策中ノ又最モ重要ナルモノニ屬シ之カ成否ハ當ニ朝鮮産業ノ隆替ニ關スル所甚カラサルノミナラス亦帝國ノ食糧政策ニ影響スル所多ク且將來ニ亘リ内地官民カ巨額ノ資金ヲ投下スルノ外直接國費ノ支出ヲ要スルモノモ少額ニ非サルヲ以テ茲ニ聊カ論評ヲ加ハシテラントス

朝鮮が大正八年以來産米計畫ヲ以テ重要産業政策ト為シタルニトノ趣旨ニ對シテハ世間ノ多数ト共ニ筆者モ亦之ヲ諒トスル者ナリ。蓋シ帝國ノ食糧問題ノ解決上我々我國内ニ於テ産米ノ増殖ヲ圖ルニトノ必要ナルコトハ素ヨリ多言ヲ要セス而モ朝鮮ハ前來屢ニ論シタル如ク當ニ氣候風土並住民ノ素質ニ

米ノ



本文ハ目下印刷中ニカ  
廣瀬事務官朝鮮出張報  
告中ノ一節ヲ抄録シタ  
モノナリ

4

第三 産米増殖計畫ニ對スル批判

産米計畫ノ綱要ハ之ヲ前項ニ於テ述ベリ  
ハ現今朝鮮ニ於ケル各種産業施設中ノ最大  
府政策中ノ又最モ重要ナルモノニ屬シ之カ成否  
業ノ隆替ニ關スル所甚カラサルノミナラス亦帝國  
ニ影響スル所多ク且將來ニ及リ内地官民カ巨  
下スルノ外直接國費ノ支出ヲ要スルモノモ亦頗  
聊カ論評ヲ加ハテアラントス

朝鮮が大正九年以來産米計畫ヲ以テ重要事  
トシトノ趣旨ニ對シテハ世間ノ多數ト共ニ筆者  
者ナリ。蓋シ帝國食糧問題ノ解決上我國  
ノ増殖ヲ圖ルニ必要ナルフトハ業ヨリ多ク  
ハ前來屢々論シタル如ク産米ニ氣候風土等

於テ米作ニ適レ加ハルニ耕地ノ擴張、耕種法ノ改良等ニヨリ將  
 來米産額増加ノ可能性ヲ最モ多量ニ有スルニナラス、産米計  
 畫上ノ最大障礙トモ謂フベキ耕地擴張費ニ於テモ内地ニ比シ著シ  
 ノ経済的ナルヲ以テ此ノ如キ地ニ於テ本計畫ヲ企圖スルニハ極メ  
 テ有益ナリト謂ハサルベカラズ、即ケ朝鮮ニ於テハ灌溉改善、開  
 墾、干拓等ノ土地改良ヲ行フカ為ニ其經費内地ノ半額ヲ必要  
 セサルナリ、今兩者ヲ比較スレハ左ノ如シ

土地改良費比較表 (及常事業費)

区分	内地ニ於ケル平均(農林)土地改良費	朝鮮ニ於ケル平均土地改良費	内地ニ對スル朝鮮ノ割合
灌溉改善	一二〇円	五四円	四五〇
地目變換	一八〇	七〇	三八九
干拓	三〇〇	一二二	四〇七

加之這般ノ第二期計畫ニ於テ低利資金供給計畫ヲ樹テ從  
 來朝鮮ニ於ケル土地改良事業ニ對スル膨腫タリシ資金ノ供給  
 不足ト資金ノ高利ニ失スルノ事實ヲ排除セムトシテハ着想モ  
 亦稱賛ニ値スベク又從前朝鮮ニ於ケル及常收量カ内地ノ半額  
 ニ達セサル主要原因ハ肥料ノ施用ヲ為サレハコトニ在ルヲ看破レ今  
 次ノ計畫更新ニ際シテ之ニ對スル對策ヲ講シタレハコトモ亦有意  
 義ノコトナルヲ失ハス

此ノ如クニシテ産米計畫ノ内容漸次改善セラレテ其實現性ノ  
 漸次確實ヲ加ヘタルコトハ真ニ喜ブベキコト、謂ハサルベカラサルモ而  
 モ筆者ハ本計畫ノ成功ニ對シテハ猶幾多危懼ノ念ヲ懷カ  
 サルヲ得サルヲ遺憾トス  
 而シテ其然ル所以ノモノ、第一點ハ土地改良事業ト河川記  
 濫ノ關係ナリトス、蓋シ土地改良事業ノ實行ニツイテハ既ニ其

設計及監督ニ於テ 將夕 其資金供給及金利ニ於テ又政府  
ノ補助金交付ニ於テ殆ント遺憾ナキヲ得タルモノ、如ント雖モ斯  
ク改良セラレタル土地カ果シテ永久的安全性ヲ有スベキヤ否ヤ。  
想フニ朝鮮現時ノ山川ヲ回望シ、一度ヒ本問題ニ想到シタルモ  
ノハ恐ラク悚然トシテ長嘆息ヲ發セム。見ヨ東流西走セル鮮  
由幾十ノ河川ニシテ制水、護岸ノ行ハタルモノ、幾何アリヤ、又  
一望連綿トシテ起伏セル嶺山秀嶺ニシテ砂防殖林ノ行ハタル  
モノ幾何アリヤ、蓋シ屏合以來河川改修ノ為ニ投セラレタル経  
費ハ吾輩五方カキ余固ニ過キズ而シテ此ノ由災害ニ甚ク度急施設  
ヲ除ケハ根本的改修計畫ノ樹ラレタルモノハ大正十四年度迄ハ  
實ニ萬頃江ノ一部ト載寧江ノ一部ニ過キサリキ 大正十五年  
度ニ至リテ洛東江、漢江、龍興江、大同江ニ對スル治水計畫ノ  
成立セハモノアリト雖モ何レモ部分的改修ニ過キスシテ其改修ノ

米文

全般的ナルモノハ唯龍興江アルニ而モ此一部分的改修スニ長期継続費  
ヲ要スルヲ施行セラル、スナルヲ以テ今後數年乃至十數年ヲ経ルニ非ハズ或  
ヲ見ル能ハサルニレ。

之ヲ要スルニ朝鮮ノ河川ハ李朝時代ノ状態ニ對シテ未ダ多クノ改善ヲ加  
ヘラレス而モ年々ノ出水氾濫ハ歳々桑滄ノ變ヲ繰返シワアリ。

更ニ道ニテ治山ノ成績ヲ觀ルニ鮮由主要ハ大河川ノ流域ノミニ於テモ  
荒廢山野四十七萬町歩ニ達シ此四國ニ於テ砂防工事ヲ施行スルノ要ア  
ルモノ約二十三萬餘町歩アリ然レニ之ニ對スル政府ノ砂防事業ハ漸ク  
大正十一年度ヨリ着手セラレタルモノニシテ既往ニ於ケル經費ノ支出總額  
百數十萬圓ヲ出テス其切程僅カニ十數百圓ノ護岸工事ト數百町  
歩ノ山腹工事ヲ竣シタルノミ而モ現今豫算上成立セル継続費ハ  
大正十一年度以降、十ニテ年度間ニ九百餘萬圓ヲ以テ要施行面積ノ  
三分一弱ヲ完成セムトスルニ過キズ 從テ治山ノ状態ハ治水ノ状態

ニ比レ更ニ一層不良ナルコトヲ看取レ得ヘシ

事態斯クハ如クハ耕作地ニ對スル最大脅威タル洪水ニ對スル保障ハ獨リ現在ノミニ止ラス相當永キ將來ニ對シテモ存セサルコト謂フベク而シテ最近ノ實績ニ徴スルモ無事ノ農民ニ巨額ノ損失ヲ被ラレタル水害ハ年々歳々頻出シテアリ今最近十箇年ノ狀況ヲ表示スレバ左ノ如シ

年次	記 憶 區 域 積	人ノ死	農作物 被害	土地被害	工 作 物 被害	家 屋 被害	畜類 其他 被害	被害額 計
大正 五	1	三九五	四三三三六	二四三三九	一三九七一	五三四三五	一四八九	一三八七五
六	1	二三〇	九七九四	一五二〇三	一五九六	二八五五	一七四〇	五五四八
七	1	二一七	二二〇三五	六七三九	三三三六	四四四五	五〇六〇	三三六九
八	1	五四七	五七三五六	九四二二〇	八二四一四	四二七〇	三二八〇	二〇三三〇

本

年次	記 憶 區 域 積	人ノ死	農作物 被害	土地被害	工 作 物 被害	家 屋 被害	畜類 其他 被害	被害額 計
九	1	一三五	一四〇八〇五	一五六八五	二二八八九	一三四七五〇	一一三三	四三三八三
一〇	1	一五	一七二五二	七三三六	一七五八	一〇三三五	八〇	三五四三
一一	1	五〇九	一三八五三	二五五三	九七五八	一四八八〇	七四四	四〇九八
一二	1	八八四	二五九三	九二〇三	三五八〇	一五二九	六八八	二〇二五
一三	九七六八	四三三	四三三三	三五九八	一八九〇	四二七	三六〇	七〇一
一四	二〇七四八	六四七	二四三〇	二八三六	六三三〇	六三三〇	三二五	一〇三三
合計	四三六六〇	五二七	九三三三	九四九四	二二八三	一〇三五	三〇六	二八三〇
平均	一四五三七	五二六	九三三三	九四九四	二二八三	一〇三五	三〇六	二八三〇

即チ年トシテ水害ノ在ラサルノ在リ即チ農作物ニ最大ノ打撃ヲ與フ。就中昨十四年ノ水害ノ如キ蓋シ未嘗有ノ大害ニシテ總督府施政進展ノ今日福遠服ノ災害ヲ親出セシト尤モ深者ニ値スルモノアリ、

環境未ダ猶斯ノ如キ秋ニ降ヒテ空前ノ大計畫タル産米策ヲ  
握ケテ起ワコトノ果シテ時宜ヲ得タルモノナリヤ否ヤ 將々又事ノ緩急  
有未ラ誤ラサルモノナリヤ否ヤ。之筆着ノ深甚ナル注意ヲ喚起ス  
ル所以ナリ。殷鑑既ニ遠カラス亦ハ水荒ニシテ今後再ゴスルコトアラム  
カ一年勞作ノ跡ヲ水泡ニ歸セシムコトハ猶之ヲ忍ブベシ。教徳ノ資  
金ヲ投シテ造成セシ田ノ流久ヲ奈何セム 將々又此等ノ資金ヲ  
投下セル由地官民ノ期與ニ對シテ何ヲ以テ酬ユルコトヲ得ベキ  
次ニ筆者着ラシテ不安ヲ感セル等ニ點ハ肥料増施ノ計畫ニ  
関ス。惟フニ今次更新計畫ノ重點ヲサ特色タルモノハ耕地ノ擴張  
ニ非スシテ寧ロ肥料ノ増施ニ在リ 蓋シ本計畫完成ノ曉ニ粒  
ケル米ノ增收見込高ハ百五十萬石中耕地ノ擴張改良ニ依ル増  
收高ハ二百八十四萬石ナルニ對シ肥料増施ニヨルモノハ實ニ五百三十七萬  
餘石即ケ增收總額ノ約六割五分ヲ占ム 從テ肥料増施計

畫ノ成否ハ全計畫ノ成敗ニ影響者スル所最モ大ナリト 謂ハサルベカ  
ラス、然ラハ本計畫畫ハ安全ニシテ實現性ニ富メリヤ否ヤ。而モ筆  
着ハ此一見實行容易ナルカ如キ本案ニ對シテモ意ヲ安ニスル能ハ  
サルヲ悲ム、如何トナレバ現今朝鮮農家ノ肥料ヲ施用セサルコトニ  
就キテハ根柢深キ理由ヲ存ス。而シテ其理由シハ恐ラテ 鮮由各  
道ヲ踏査シテ耕地ノ實況ヲ視察シタムノ、感得セサラント欲ス  
ル能ハサル所ナレバ即々此等耕地ノ大部分ハ元來前速ノ年一々  
氾濫常ナキ河川ノ流域ニ在リテ日々出水ノ脅威ヲ受ケテアハスノ  
ナレハナリ 果シテ然ラハ此ノ如キ耕地ニ對シテ高價ナル肥料ヲ投施  
スルコトハ如何ナル鈍愚ノ着ト雖モ高躊躇<sup>セザ</sup>ル能ハサル所ナレバ。政  
ニ鮮民カ從來多量ニ追リテ肥料ヲ使用セサルノ慣習ヲ剔致シ  
タムニ就テハ正當ノ理由存スルモノト謂ハサルベカラス 而モ水荒ノ脅  
威ノ除去セラレサルコト前述ノ如シトセバ假令資金ノ供給潤澤

ナリト雖モ從前ノ慣習ヲ一變シテ遠ニ肥料ノ一般的使用開始ノ行ハルキヲ豫想スル能ハス且又上述ノ如キ危險ニ曝サレタル耕地ニ施肥ヲ行フコト自體カ果シテ究竟ニ於テ經濟的方法ナリヤ否ヤモ大ニ疑問ナリトセザルハカラス之ヲ要スルニ肥料増産計畫ハ理論上適當ノモノト稱シ得ベケンモ實際上豫期ノ效果ヲ擧クベク幾多ノ困難ヲ生スルノ懼アズト謂フベシ

産業計畫ノ第三ノ難點ハ農家ノ收支計算ノ問題ナリトス産業計畫ヲ政府立案ノ計畫トシテ觀察スル時ハ七點ニ點ニ跌陥ヲ豫キテハ大體ニ於テ固利ナル困難ノ下ニ計畫セラレタルモノ、如レト雖モ一面本計畫ノ下ニ實際ノ經濟上ノ危險ヲ負擔シマ、實、行ノ任ニ當ルベキ農家ノ方面ヨリ觀スルニ亦テ有利ニ立案セラレタリヤハ更ニ檢討ノ餘地アルナリ今總督府作成ニ方ハ農家ノ收支計算表ヲ看ハニ灌漑改善及地目變換ニ於テハ第一年ニ於テ土地改

米

良事業ニ着手シ第二年ニ於テ之ヲ完成シ第三年ヨリ耕作ヲ開始スルト共ニ元利金ノ均等償還ヲ開始シ而モ第三年ヨリ何レモ若干ノ利益ヲ得ルノ計算ナリ又開墾手招ニ於テハ當初ノ三年間ニ於テ事業ヲ完成シ第四年ヨリ耕作ヲ開始スルト共ニ元利ノ均等償還ヲ開始セザルベカラズ之カ為第四年ヨリ及第五年ヨリハ相當多額ノ缺損ヲ生スルノ計算ナリ以上ニヨレハ灌漑改善及地目變換ニ於テハ借入元利金ノ均等償還ヲ行フモ通常ニ從前ニ比シ利益ノ増收ヲ得ルノ理ナリト雖モ斯ノ如キ計算カ果シテ真實ニ實現シ得一キヤニ就キテハ頗ル疑問ヲ懷カサルヲ得ス元來土地改良ヲ行ヒタル耕地ニ於ケル農作物ノ收穫ヲ事業完成ノ翌年ヨリ平年量ニ達セシムコトハ頗ル困難ノコトニシテ如何ニ耕種法ノ練達ヲ以テスルモ尙數年ノ經過的期間ヲ要スルヲ普通トス故ニ事業完成後ノ二三年ニ於テハ平年量ニ比シ相當ノ減收アルモノト見ルヲ確實ナリトス之ヲ從

元利均等ノ償還ヲ事業完成ノ翌年ヨリ開始セシムトスルハ  
聊カ酷ニ過スルノ嫌アリ況ヤ利息金發生ノ豫想ノ如キハ唯其  
空想ニ終ルナキヲ祈ルンシ。然レトモ此等ニ着テ執イテハ尚忍ビ  
得ニシトスモ筆者ノ最モ樂觀ヲ許サラムトスルモハ開墾干拓  
ナリ今次干拓地ヲ算査シ且經驗者ノ説ヲ聽ク所ニヨレハ干拓  
地ハ其造成ノ初期ニ於テハ墾合ノ包有多クシテ作物ノ收量ノ初  
年ニ於テハ通常ノ二三割ニ過キス甚レキニ至ラハ皆無ノコトアリ  
而レテ通常程度ノ收獲ヲ得ルカ為ニ少クトモ五六年ヲ要スルカ  
如シ然レニ前掲計算書ニヨレハ此年ノ土地ニワキテモ事業完成ノ  
翌年ヨリ元利均等ノ償還ヲ行ハサルベカラス然レトモ總督府計  
算ニ從ヒ收獲量ヲ完成後第一年ニ於テ通常作ノ約四割第  
二年ニ於テ約八割ト見ヘモ尚若干ノ損失ヲ生セザルヲ得ス況ン  
ヤ筆者ノ論スル如ク當初ノ收獲ニ割外ニシテ爾後五六年間

通事作ヲ得ル能ハサルニトセハ其結果ヤ果シテ奈何、若シ  
夫レ朝鮮ノ現状ニ於テ必無ク期スヘカラサル洪水旱魃ノ其間ニ發生ス  
カ如キコトアテニク受テ奈何、論シテ茲ニ到レハ總督府計算ガ徒ラニ有  
利ノ場合ノミヲ觀ハニ急ナル結果計算ノ安全率ヲ算入スルニトテ  
忘レ而モ此ノ如キ計算ヲ基礎トシテ收獲未ク伴ハサルニ先ケテ農  
業金利トシテハ例ヘテ分内外ト雖モ未ク全無低利ト稱スベカラサル  
資金ノ元利均等償還ヲ行ハシメントスルニト謂フベク果シテ然ラハ  
將來本計畫ノ進捗ニ隨ヒ幾多實行上ノ支障ヲ生スルニトナキ  
ヲ保ヤス而モ其支障タルヤ軍ナル農民ノ怨嗟嘆聲ニ止ラハ可、  
或ハ恐ル彼等ガ負擔ノ過重ニ堪エスレテ或ハ祖先傳承ノ田苗ヲ  
失ヒ或ハ多年經營ノ新開地ヲ離權スルカ如キコトアラサルカヲ。事  
態茲ニ到ラハ意ニ本計畫遂行ノ前途ニ陰慘タル時勢ヲ投スル  
ノミナラス本計畫ノ最大目的タル鮮民經濟ノ向上テフ目的ニ背反



スノ悲シムベキ結果ヲ招徠スルノ實ニ輕視スベカラサル所ナリ  
 論者或ハ上述ノ批判ヲ以テ机上ノ空論ヲ弄シテ徒ラニ杞人ノ  
 憂ヲ描出セルモノト評ヤムモ以上ノ論ハ決シテ單ナル蓋然的事実ヲ  
 想像シタルモノニ非ズシテ事實ハ既ニ發生シツ、アハナリ、即ケ大正  
 十四年七月ノ金野ニ亘ル大水害ノ際ニ於テハ縣内水利組合總數六  
 十之内二十四組合又一企業會社ノ既成改良事業地ハ浸水流失  
 又ハ水路堤防ノ破壊ニ遭ヒ其復舊費總額二百三十一萬九千八百  
 十五圓ヲ要スルニ至リ政府ハ之ニ對シ思補助ヲ與ヘタル組合ニ對シ  
 再ヒ百十萬餘圓ノ災害復舊補助金ヲ支出セサルヲ得サルノ結果  
 ヲ生シタルノミナラス大正十五年夏ノ比較的少出水ニ對シテモ同様  
 ノ被害アリ總督府ハ再ヒ復舊補助金四十餘萬圓ヲ昭和ニ  
 軍度追加豫算ニ要求シツ、アリ而シテ大正十三年以來水利  
 組合及個人企業者ノ既成改良地ニシテ水害ノ厄ヲ蒙リタルハ

水利組合  
個人及會社

計

- 三一
- 一二
- 四三

ニ達シ水利組合ノ如キハ實ニ總數ノ半ハ悉ク被害ヲ受ケ居リ  
 而モ此内最近四箇年内ニ於テ令一地ニシテ五以上被害アリタルモノ  
 一、二回以上ノモノ一〇ヲ算スルニ至リテハ誰カ又既往ニ於ケル土地改良ノ  
 設計ノ杜撰、工事ノ粗漏ニ對シテ辯護スルコトヲ得ム哉斯ノ如ク  
 ニシテ大正十三年度以來政府ノ既ニ支出シ又ハ將ニ支出セムトシツ、アハ  
 改良土地ノ復舊補助金ハ總額毎員ニ二百六十四萬五千九百十一圓  
 ニ達セリ即ケ左ノ如シ

改良土地復舊補助金支出額

支出年度別	支出種別	金額	備考
大正十二年年度	豫算外支出	七二八八〇	大正十二年水害
大正十三年年度	同上	三四三三〇	
大正十四年度	同上	二〇〇,〇〇〇	大正十四年水害
大正十五年年度	追加豫算	九〇九,九〇七	
昭和二年年度	追加豫算要求中	四四四,七五四	大正十五年水害
計		二,六四九,九一一	

又現存水利組合中事業ノ貸績豫定計畫ト齟齬ニ為  
ニ或ハ事業ノ繼續ヲ放棄シ或ハ組合債務ノ償還不能ニ陥  
リ結局政府ニ於テ相當救済ノ途ヲ講セサルヲ得サルノ状態ニ在  
ルモノ五指ヲ屈スルモ尚足ラサルノ實状ノ如キハ抑々何事ヲ暗  
示スルモノゾ而モ将来水利組合ノ増加改良耕地面積ノ累

米

増スニ從ヒ這般ノ被害及之ニ伴フ世ニ最モ馬鹿馬鹿シキ災害復舊  
助成金ノ支出愈々尙増スベキコトヲ推論セサルヲ得サルノ事態  
ニ直面シテハ何ノ語ヲ以テカ之ヲ迎ヘム茲ニ至ッテ誰カ又吾復轍セ  
ル前車ノ累々トシテ眼前ニ散亂セムヲ歎セサルモノアラムヤ  
之ヲ要スルニ現在ノ産米増殖計畫ハ計畫部ニ於テモ前  
述ノ如ク欠陥ヲ有スルノミナラス本計畫ノ外ニ之ト相呼應シテ  
當然施設セラルベキ企畫ニシテ未タ其緒ニ就カサルモノアリ之恰モ  
基礎未タ成ラサル地上ニ樓閣ヲ建設セムトスルノ擧ニ對スル等  
シテ到底吾人ノ安心ヲ許ス能ハサル所トス  
故ニ本計畫ノ實施ニ當リテハ深ク此點ニ留意シ此ノ如キ跋  
行的計畫カ勅モスレハ起サトスル破綻ヲ招クテ回避スルコトニ  
專心セサルベカラズ從ッテ徒ラニ切ヲ擧グルニ急ニシテ或ハ不堅實  
ナル水利組合ヲ組織シ或ハ改修未タ成サル河川ノ流域ニ之

地改良ノ事業ニ着手スルカ如キフトハ最モ戒慎セサルベカラス  
所ナルベク而モ此等ノ點ニツキテハ獨リ事業ノ設計監督者及  
企業者ニ於テ自家ノ責任及利益ノ為ニ省慮セサルベカラサル  
ノミナラス又本計畫ニ對シ或ハ事業資金ヲ供給シ或ハ補助  
金ヲ支出セムトスルモ亦嚴シク之カ監視ヲ怠ラス苟モ事業  
地ノ適當ヲ缺キ企業困難見ノ杜撰ニ至ルカ如キモノニ對シテ  
ハ斷乎トシテ之ヲ抑制スルノ舉ニ出テスニバ其禍害ノ波及  
スル所慮ニ直接當事者ノミニ非ルベキコト敢テ細論ノ要ナ  
カラム

訂正

大正十五年四月

四、五、校務督府長所

# 土地改良事業實施方法